

ESD ユネスコ世界会議交流セミナー報告書

団体名 日本環境教育学会・日本国際理解教育学会・日本社会教育学会

「ESD の 10 年の成果と今後 ー学術 3 学会からの総括と未来ー」

【ESD ユネスコ世界会議の成果】

パネリスト

日本環境教育学会会長 阿部治(立教大学)
日本国際理解教育学会会長 藤原孝章(同志社女子大学)
日本社会教育学会副会長 田中雅文(日本女子大学)

司会

日本環境教育学会理事 水山光春(京都教育大学)

内容

100 名以上の人に参加して下さり、日本環境教育学会水山理事の司会のもと、ESD の普及や推進に取り組んできた日本環境教育学会、日本国際理解教育学会、日本社会教育学会の 3 学会は ESD の 10 年をどう捉えてきたのか、そして今後の展望について各パネリストから報告があった。

日本環境教育学会の阿部治会長は、ESD は環境・社会・文化などとのつながりの中で持続可能な社会の構築を目指す(広義の)環境教育と捉え、その中で、自然環境を保全することがベースになるとし、(狭義の)環境教育は ESD のベースであると述べた。

日本国際理解教育学会の藤原孝章会長は、学校教育の話を中心に、ESD と国際理解教育の内容の重なることが多いことや、文化、社会、地球的課題の理解と、次世代への継承が大切であること、また、グローバル・シチズンシップ・エデュケーション(GCE)との関わりの必要性についても述べた。

日本社会教育学会の田中雅文副会長は、社会教育の立場から、相互の教育や学び合いが重要であるとし、学び合いとコミュニティづくりの推進、SD(持続可能な開発)のための課題解決学習の推進、学校教育との連携などから、SD 型の社会構造構築に向けて、ESD の研究・推進が必要であると述べた。



【今後の展望】

質疑応答の時間のあと、各学会長が今後の展望についてコメントした。

今回のセミナーで持続可能な社会づくりを行っていくには、学校教育と社会教育が連携しながら ESD を推進することが大切であることを再確認することができた。しかしながら、この 10 年で ESD が普及してきたものの、ESD が十分に教育の中に根付いていないことや、評価がしっかりとされていないことなどの問題点が指摘され、今後の課題となることを確認した。

ESD は多様なステイクホルダーが連携しながら進めていくことが大切であるとの観点からも、今後 3 学会が連携して ESD を推進していく確認をして、今回のセミナーを終えた。